

高岡市の親子環境教室は18日、同市オフィスパークで開かれ、小学生ら15人がアルミを使った発電の仕組みなどを学んだ。

パーク内の環境ベンチャー企業「アルハイテック」では、同社の水木伸明専務らが講師を務め、アルミを反応液に入れると水素が発生し、水素を燃料電池に入れると電気が得られると説明した。

2つのアルミを反応させて小



アルミによる発電実験に目を凝らす児童
＝高岡市オフィスパーク

アルミから発電「すごい」 高岡で親子環境教室

型扇風機を回す実験が行われ、児童らは環境に優しいエネルギーに理解を深めた。

同社は飲料用パックからアルミを回収して発電する事業の実用化を目指しており、同市能町小3年の山下蒼真君は「ジュースのパックに付いたアルミでも発電できてすごいと思った」と話した。

県産業高度化センターでは、川の調査に用いるキット作りなどが行われた。